

---

---

# 沢も2度目なら～♪ 少しはじょうずに・・・♪♪

## 三国川五十沢川 下ノ滝沢

白井達也

---

---

今シーズン6回目の沢山行は、去年敗退した下ノ滝沢です。

- メンバー ㊦斎藤(亘)・白井
- 2015年9月20日(日) 晴れ
- コースタイム

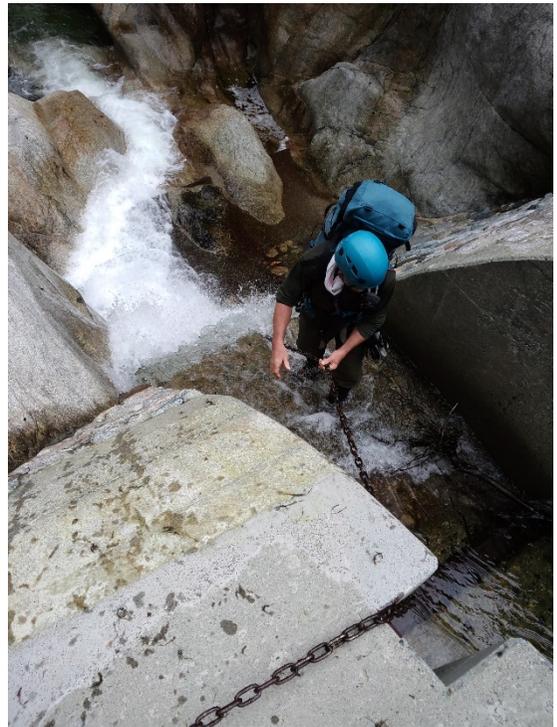
天竺の里みやて小屋9:18→取水口10:23→三合目11:52→四合目12:22→20m2段滝下13:48

歩程4時間30分(休憩含む)

いつものように大宮集合。上越新幹線の下り一番列車「とき301号」に乗車。電車を乗り継ぎ、8:21に六日町着。タクシーに乗り換えて、みやて小屋に8:52に到着(4,820円)しました。去年は前夜発の車で入りましたが、奥のゲートが8:00頃しか開かないので8:15位の到着でした。(あまり変わらないかな～)

天気はまずまず。(山のほうには雲がかかっています)水平道を小一時間行くと発電所の取水口に到着しました。と、水が多い・・・！鎖を使って下に降りて対岸に渡るのですが、滝のように水が落ちていて、とても降りることが出来ません。(鎖は長いものに付け替えられていましたが・・・)仕方なく途中の落ち口まで鎖で降りて、亘さんにショルダーで堰堤に上がってもらい、お助けで何とかこの悪場？を抜けることが出来ました。先が思いやられます。

いつもながら一般道とは思えない大高巻き道を、大汗かきながら越えると四合目。ここか



ら渡渉点を探しながら本流を下り、左岸から合わせる下ノ滝沢に入ります。が、やはり水量多く、左岸をあまり水に触れることなく進んで、中ノ滝沢出合から右岸に渡って少し登ると、程なく20m2段滝下に到着。この上は高巻きを二つこなさないと天場がないので、だいぶ早いのですがここでテントを張ります。

まだ日が高いうちから火を焚き、お神酒を挙げて道中の無事と成功を祈念いたしました。

- 2015年9月21日(月) 晴れのち曇り(ガスかかる)夜晴れ

## ●コースタイム

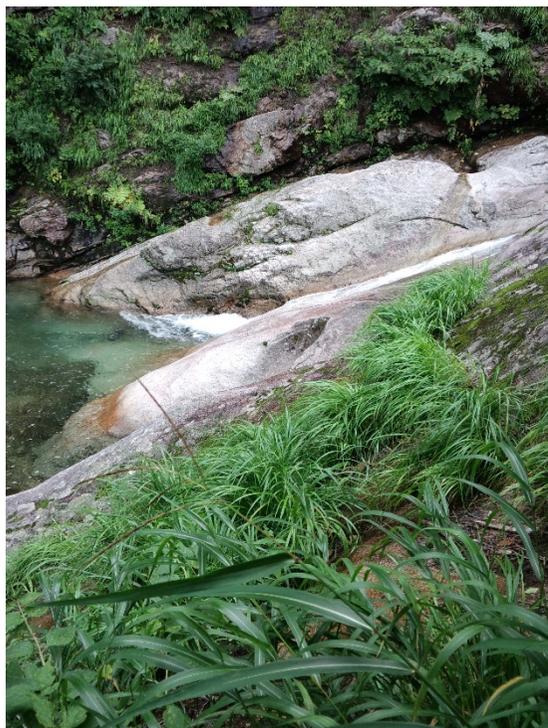
幕営地 6:25 → 第1ゴルジュ下部巻き終了  
7:10 → 第1ゴルジュ上部巻き終了 8:40 → 岩  
小屋 9:00 → 石畳 10:00 → 第2ゴルジュ入口  
10:20 → 前回到達点(第2ゴルジュ下部巻き  
終了) 12:00 → 1本目枝沢 14:40 → 第2ゴル  
ジュ上部巻き終了 15:25 → 天国ナメ末端  
15:45

歩程9時間20分(休憩含む)

今日は高巻きの一日です。6時には出発と  
思っていたのですが、なんと寝過ごして出遅れ。  
あわててテントを撤収し出発しました。(＞\_＜)

朝一の20m2段滝は右岸から巻きます。な  
るべく低くと意識して進むと、去年登った岩稜  
(残置あり)の下をうまいこと抜けて、幸先良く  
45分で沢床に降りることが出来ました。

ここから記録は右岸・左岸といろいろルー  
トが取れるようですが、我々は左岸を選択。  
(去年はなるべく水線に沿ってとチャレンジし



たものの、実力不足を露呈して結局左岸を  
巻いた)大事の前の小事?と、20mナメ滝・  
逆くの字滝など足下に見ながらそっくり巻いて  
いきます。(次回こそは・・・ないだろうな～)滝  
で出会う枝沢を少し高く巻いて本流に戻ると、  
ちょうど巨大CS滝の落ち口付近に降りること  
が出来ました。第1ゴルジュの巻き完了です。

ここから溪相は一変して、小滝多数と言っ  
ていいほどの大岩ゴ一登りになります。去年  
は気がつかなかった岩小屋(2・3人がどうに  
か横になれる程度です)を確認し、その後た  
っぷり1時間汗を搾られて岩畳に到着しまし  
た。ここは去年ルンルンで歩けた場所ですが、  
今回は増水のため、一面水で濡れています。  
傾斜はさほどではないのですが、ヌメるコケが  
水の下に隠れていたりして、おっかなびっくり  
進みます。(ステルスの弱点ですな～(T\_T))

ほどなく第2ゴルジュの入口12m滝に到着。  
ここからが高巻きの本番です。滝の右岸に登  
り始めますがぬるぬるでとても無理。それでは  
と小さく巻いて沢床に降りますが、すぐにまた  
追い上げられてしまいます。かれこれ1時間  
半ほど藪をこぐと岩稜が現れ、この下の草付  
バンドを抜けると一気に視界が開けました。そ  
して目の前には見覚えのある大きな岩のテラ  
スがあります。去年の最終到達点に到着しま  
した。時刻は12時。前より1時間半も早い到  
着です。去年は疲労とタイムオーバーでここ  
から涙の撤退。巻き下りの大変な苦勞をす  
ることになりました。(何回懸垂したんだっけ?)

ここから来し方を眺めれば、狭い谷に挟ま  
れたその先に、黄金色に輝く田んぼとその中  
に点在する集落が見えます。あそこにはいつ  
もと変わらない生活時間が流れていると思  
うと、自分の今立っている非日常的なスタンス



(テラス?)に、いまさらながら驚かされます。

さてこの先はと見ると、対岸の大スラブ壁のその奥に、100mの大滝が白い糸の様な水流を落としています。今日中にあれを越えないと天場が無いとなれば、ゆっくりと感慨に浸っている時間はありません。去年の忘れ物を取りに出発です。

まずは大滝の落ち口付近を目指して巻いて行きますが、灌木藪に入ると周りの状況がわかりません。2時間ほど巻いたところで上りすぎに気づき(後でGPSの記録で確認すると標高差50m)、巻き下りながら大滝上で合わさる枝沢に降りるポイントを探します。なるべく傾斜の緩い所を選んで下って行くとドンピシャリ、枝沢が急激に大滝に落ち込む手前に下りることが出来ました。

目の前には40mの滝が豊富な水を釜に落とし、そこから意外と細い水流が大滝の落ち口に吸い込まれていきます。40m滝は快適

に登れるそうですが、さわる気にもなりません。まとめて巻くべく枝沢を横断(スタンスが高くてなかなか登れず、一瞬ハマったかと思った)。

2本目の枝沢は楽に越えて、もう一つ藪を漕ぐと40m滝落ち口の上に出ます。ここから沢床まではいくらもないのですが、ナメの沢床にはいかにもすべりそうなヌメがびっしり……。万が一すべったら40mのすべり台、その下は100mのダイビング～～…！ここは先人の言葉「あやまちすな、こころしておりよ」と、近くの灌木に捨て縄をかけ、懸垂で乾いた岩まで降りました。(今回ザイルを出したのはここだけ)



ほっとしたところで、上流を見ると

「どっひやあああ〜！」

(お・や・く・そ・くのパクリで…m( )m)

な・なんと…！広大なスラブの大伽藍が空に向かって広がっていますう〜！

〜〜\(\◎o◎)/〜〜…(しはし果然)

はっ！と我に返ると、時刻はもう16時近く

になっています。天場を捜しながら遡ると、右岸に平らな岩のテーブルがあります。一段上にもテラスがあります。上のテラスを見に行くと、二日前までの雨で周りの土壌から水が染み出してグジャグジャ。下のテーブルはというと、乾いてはいますが横になると水流に向かって傾いている上に、3cmも増水すると水に洗われそうです。5cm増水したら・・・究極の選択ですが、今晚は雨なしと判断して下のテーブルにテントを張ります。(周囲に重しになるような石がないので置いただけ)今日は焚き火もなく(流木もないので)残りのウイスキーを空けて、さっさと寝てしまいました。(一晩中テントごと流される夢で、熟睡出来ませんでした)

●2015年9月22日(火) 快晴

●コースタイム

天国ナメ末端6:45→野外ステージ滝7:50→ミニゴルジュ上8:40→二股9:45→終了点10:35→巻機山標識11:05→下山開始11:35→雲天15:00

歩程8時間15分(休憩含む)

朝5時起床。フライが風にたたかれる音で目を覚まします。天気は快晴。勇躍外に出ますが・・・さぶう～！山から吹き降ろす風が冷たくて、とても外で朝食を食べる気になりません。さすがにもう秋の風情です。

ぐずぐずして、ようやく出発したのは7時前。(荷物を出した空のテントが、風に持っていかれそうになるハプニングも)一歩目から天国？のナメです。が、相変わらずフリクションの怪しい所も多く、思わず「天国へのヌメじゃないの」と愚痴も出ます。

日のあたらない(登山道が通っている尾根の影で)天国のナメを登ること1時間。ようやくナ



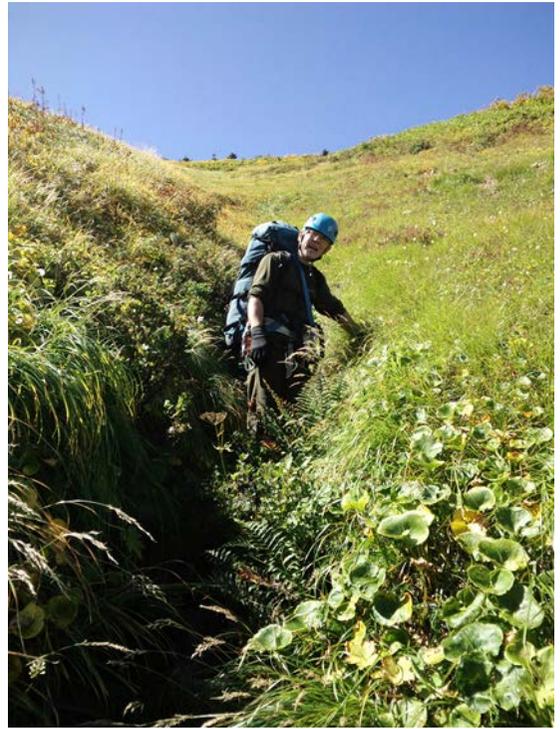
メの最奥、野外ステージ状10m滝に到達。ここも直登可能とのことですが・・・迷わず右岸を巻きます。一段上がって大バンドから灌木交じりの根曲がり竹の密藪に突入しますが、確かなスタンスがないので腕力まかせのトラバースになります。あ～れ～、腕の力が抜けて沢床にずり落ちた所が終了点。やれやれです。ミニゴルジュもまとめて巻きました。

ふと上流を見ると、ふお～！平らなナメの上をサラサラと水が流れ落ちていきます。折からようやく届いた朝日が水面にキラキラ反射して、天国もかくや！の絶景です。癒やされるな～。パンプした腕を休めた後、たおやかな牛ヶ岳を左手に見ながら遡行を再開しました。

二股を過ぎると、溪相はいよいよ源頭の雲囲気になり、巻機山から割引岳へ伸びる稜線の真ん中くらいを目標に小滝・ガリーを詰め



ていきます。と、なにやら人の気配が。見上げると、稜線を行く登山者の姿・・・！ようやく日常に戻れそうです。詰め最後は、草紅葉が始まった急な草付(秋の高山植物の花園です)を四つん這いで登り、ついに稜線にたどり着きました。亘さんの長年の恋人、下ノ滝沢の終了点です！



長いアプローチと地獄の高巻きを経て、ようやくたどり着く天国のナメ。そしてハイカー集う百名山巻機山の喧騒の此岸。一度は行かねば。でも二度目はチョット・・・の下ノ滝沢に、二度行く馬鹿がここにいた！

色づきはじめて紅葉の色と共に、心に残る山行でした。(^.^)y-.。o

